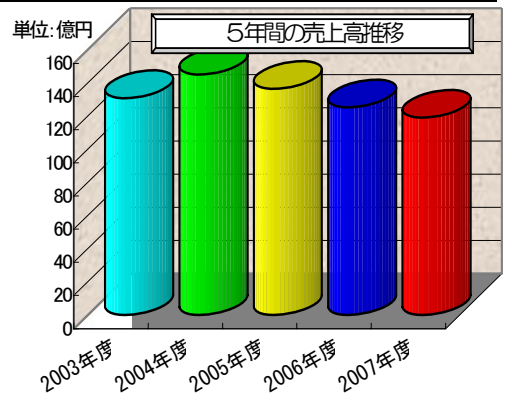


環境のあゆみ  
2008

# 会社概要

創 業 昭和33年12月6日  
 設 立 昭和36年9月20日  
 資 本 金 9,850万円  
 従業員数 317名（2008年4月1日現在／グループ全体）  
 事業内容 コーヒーフレッシュ、シロップ、美と健康飲料、  
 および洋生菓子等の食品製造販売  
 関連会社 株式会社メロディアンメンテ  
 株式会社メロディアンハーモニーファイン



## 沿革

昭和33年12月 大阪府八尾市に日興乳業創業  
 昭和36年 9月 日興乳業株式会社を資本金100万円で法人設立  
 昭和49年 9月 資本金2,000万円に増資  
 昭和54年 5月 東京営業所開設（現:東日本事業所）  
 昭和55年 6月 広島営業所・福岡営業所（現:九州営業所）開設  
 昭和61年11月 三重上野工場建設 敷地面積1万坪 40億円投資  
 平成 元年 3月 高松営業所開設  
           6月 メロディアン株式会社に社名変更  
 平成 2年 4月 国際花と緑の博覧会「MELODIAN LAND」出展  
 平成 3年 1月 環境対策委員会を発足  
 平成 4年 4月 『環境対策委員会のあゆみ』（現:環境のあゆみ）を発刊  
           10月 株式会社メロディアンメンテ設立  
           11月 『日本高山植物保護協会(JAFPA)』へ法人入会と関西支部設立に協力  
           12月 資本金9,800万円に増資  
 平成 5年 3月 高山植物保護キャンペーン『高山植物いろいろプレゼント』を実施  
           社用車のディーゼルエンジン車からガソリンエンジン車への全面切替を決定（NOx対策）  
 平成 6年 6月 三重上野工場排水処理設備の増設  
 平成 7年 5月 当社社員より『日本高山植物保護協会(JAFPA)』の理事へ就任  
 平成 8年 5月 三重上野工場へ高温焼却炉を設置（ダイオキシン対策）  
 平成10年 3月 社用車のガソリンエンジン車輻への全面切替完了と低公害車導入の決定  
           12月 三重上野工場がISO9002の認証を取得  
 平成12年 1月 ISO14001を全社一斉認証取得  
 平成13年 4月 近畿事業所・名古屋営業所（現:中部営業所）開設  
           10月 認証取得範囲を企画開発部門まで拡大しISO9001へ更新  
           11月 三重上野工場の焼却炉運転の全面停止（平成14年3月撤去）  
 平成14年 1月 三重上野工場から埋め立て処分場へ直接排出される廃棄物の撲滅達成  
           2月 三重上野工場排水処理施設へ膜濾過設備を導入  
           12月 三重上野工場にてHACCP認証取得  
 平成16年 4月 岡山営業所開設  
           11月 三重上野工場を三重工場へ名称変更（市町村合併に伴う変更）  
 平成17年 1月 社用車へハイブリッド車の導入を開始  
           11月 株式会社メロディアンハーモニーファイン設立  
 平成18年 4月 四国営業所を岡山営業所へ統合し中四国営業所を開設  
 平成19年 3月 三重工場へ中身入ポーション破砕分別設備を導入  
           10月 研究所開設  
 平成20年 4月 ISO14001 認証取得範囲から営業部、特販部、開発営業部を除外し、当社環境マ  
           ネジメントシステムの準適用組織とした

## ◆ ご挨拶 ◆

メロディアングループは豊かな食文化の創造をめざすとともに、『信頼される人間になろう』『信頼される商品を作ろう』『信頼される企業になろう』を社是に掲げて真実と信頼の企業活動に努力して参りました。そして、常に美と健康をサポートし、お客様と感動を共有出来る企業を目指して努力しております。

ここ数年来、毎年のように食品企業をはじめ各企業の不祥事が相次いで発覚し、国民の生活の安全、安心を脅かしています。

当社にとっても決して他人事ではなく、企業としての社会的責任を果たし、企業倫理を遵守していくことが企業存続の大きな鍵だと認識いたしております。企業にとって『ブランドイメージは重要な資産である』という認識のもと、製品の安心・安全をはじめ、企業市民の一員として日々の企業活動を通じて地球環境へ与える負荷を軽減すべく、原材料の省資源化やエネルギーの効率的利用、社用車の削減など環境保全への取り組みを進めてまいりました。

今年は京都議定書の第1 約束期間初年度であり、我が国において洞爺湖サミットが開催された年でもあり、地球温暖化防止の声も益々高まっています。これを機に、より多くの皆様に NPO 法人日本高山植物保護協会への協力を通じて、地球環境保全の取り組みにご賛同いただければ幸いです。

グループを取り巻く経営環境は、「製品安・原料高」に象徴される経営環境の悪化が、世界規模での原油・穀物および乳製品の暴騰によって急激に加速するという非常な経営環境の悪化にさらされる中、危機的状況への対応として直接的な環境影響の少なく、販売の第一線を担う営業部門を、EMS 認証取得範囲から除外し、営業活動へ注力することによって建て直しを図って参ります。このような非常に厳しい状況ですが、皆様の更なるご協力のもと、全従業員が一丸となって現状を打破し、引き続き真実と信頼の企業活動を継続して参りたいと願っております。

この『環境のあゆみ2008』は、2007年度の取り組みとその結果を掲載しております。

メロディアングループの取り組みを知っていただくと共に、今後もより一層の充実を目指したいと思っておりますので、忌憚のないご意見、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



2008年7月 代表取締役 社長 中西啓詞

## 事業所一覧

本 社	〒581-0833 大阪府八尾市旭ヶ丘 1-33	TEL : 072-999-3250 (代表)
研 究 所	〒581-0869 大阪府八尾市桜ヶ丘 2-128-1	TEL : 072-924-3215 (代表)
東日本事業所	〒151-0053 東京都渋谷区代々木 4-29-4 (西新宿ミノシマビル 3F)	TEL : 03-5371-3637 (代表)
近畿事業所	〒532-0003 大阪市淀川区宮原 5-1-18 (新大阪サンアールセンタービル 10F)	TEL : 06-6150-3277 (代表)
中部営業所	〒450-0002 名古屋市中村区名駅 4-2-7 (丸森パークビル 5F)	TEL : 052-587-5150
中四国営業所	〒700-0907 岡山県岡山市下石井 1-1-3 (日本生命岡山第2ビル 6階)	TEL : 086-235-3826
広島営業所	〒732-0824 広島市南区的場町 1-1-21 (クリスタルタワー904号室)	TEL : 082-262-7801
九州営業所	〒812-0016 福岡市博多区博多駅南 1-5-18 (サウス・ワン 1F)	TEL : 092-474-4227
三重工場	〒518-1151 三重県伊賀市白檜 2816-6	TEL : 0595-20-2000 (代表)

# 経営理念と環境方針

## 経営理念

### — 社 是 —

1. 信頼される人間になろう。
1. 信頼される商品を作ろう。
1. 信頼される企業になろう。

### — 基本方針 —

当社は、豊かな食文化の創造をめざし、真実と信頼の経営を展開して、顧客、取引先ならびに社員の繁栄と幸福に最大限寄与することにより、以下の5項目を基本方針とします。

- 一、信頼される商品の提供、および誠実かつ積極的な社員の人間形成を通して、企業の信頼性を向上させます。
- 一、市場環境の変化に対応した着実な規模の拡大と、経営管理システムを強化・徹底して、収益構造を強化します。
- 一、顧客第一主義にもとづいた、『おいしさはしあわせ』『美と健康』をテーマに創造性豊かな新製品の開発を目指すとともに新市場開拓をより一層推進します。
- 一、法令遵守を基本に、環境保全にも積極的に取り組み、広く社会や顧客に支持される企業づくりを目指します。
- 一、働き甲斐の創造につながる、明朗かつ風通しのよい職場環境づくりを推進します。

## 環境方針

### 1. 基本理念

当社は、高山植物保護活動をはじめとして、地球環境の保全に積極的に取り組み、社会や顧客から支持される企業作りを目指し、「物を大切に」「資源を大切に」「自然を大切に」を基本に、環境負荷の低減を図ります。

### 2. 基本方針

- 1) ISO14001に基づく環境管理システムの構築を行い、外部取引先様と共に環境保全活動を推進し、環境汚染の防止と環境負荷低減の継続的改善を図ります。
- 2) 環境関連の法規制、地域との協定などの順守と、これらの管理基準を整備し、管理状態の維持・向上を図ります。
- 3) 環境保全活動の目的・目標を定め、これを定期的に見直すと共に、その達成を図ります。
- 4) 無駄の排除・抑制及びリサイクルなどによる、資源の有効活用を図ります。
- 5) 電力・燃料など、エネルギーの効率的利用を推進し地球温暖化防止を図ります。
- 6) 従業員への教育、社内広報活動などを実施し、全ての従業員に対して、環境方針の周知及び環境に関する意識の向上を図ります。
- 7) この環境方針を社外へも公開し、達成を図ります。

平成20年2月14日

メロディアン株式会社  
株式会社メロディアンメンテ  
代表取締役社長 中西 啓詞

## 『環境のあゆみ2008』報告にあたり

この環境レポート「環境のあゆみ」は、環境保全活動の報告を主な目的とし、2002年度（平成14年度）より一般の方々へ公開しております。また、今回より紙資源保護を目的に Web での公開を基本とし、冊子による配布を最小限に抑えておりますのでご理解いただきたく存じます。冊子ご希望の場合は当社ホームページよりダウンロードしてご利用ください。また、作成単位を極少化するために社内作成しておりますので、印刷インクや用紙など素材面での対応が十分出来かねている現状ではございますが、重ねてご理解いただきたく存じます。

今回の「環境のあゆみ2008」の報告対象期間は2007年度（2007年4月1日～2008年3月31日）の活動内容と結果を基本としておりますが、一部報告には2008年度の計画を含んでいます。

対象範囲はメロディアン株式会社(全事業所)と株式会社メロディアンメンテの環境保全活動です。

昨年6月発行の「環境のあゆみ2007」に対する貴重なご意見・ご感想をお寄せ頂きありがとうございます。読者の皆様の貴重な声を今後も環境保全活動と報告書作成に活用させて頂きたく、今回も簡単なアンケートをご用意いたしましたので、忌憚のないご意見、ご感想をお寄せ下さい。

(次回発行時期：2009年 春、発行担当：環境対策委員会 事務局)

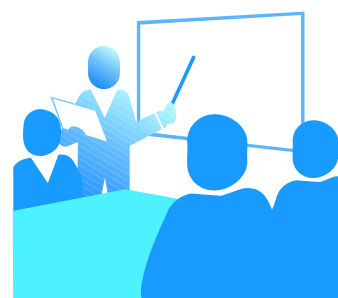


# 環境マネジメントシステムの概要と運用状況

## 環境マネジメントシステム組織図



社長が責任者(環境管理責任者が副責任者)として毎月1回開催する経営会議には、各部門の責任者である部長をはじめ各部門の担当取締役も参加し年度目標の達成状況の確認や、環境情報の共有化を図ると共に、環境保全に関する重要事項の審議と決定を行っています。また、経営会議の直下には環境管理責任者が委員長をつとめる環境対策委員会を設置し、経営会議へ上申するための実務レベルの協議事項や、内部監査のための打合せ、この「環境のあゆみ」編集方針の打合せなどの協議を実施しています。



## 環境マネジメントシステムの運用状況

当社は2000年(平成12年)1月に環境マネジメントシステムの国際規格 ISO14001 (JISQ14001)を全社全事業所一括で認証取得いたしました。それ以来、毎年1回以上の内部環境監査と外部の第三者審査機関による定期審査を実施し、徐々にではありますが環境マネジメントシステムの維持向上に努めています。

2007年度の内部監査は、社内の資格認定基準を満たした16名の内部環境監査員により全社全部門の内部監査を実施し、26件の「是正要求書」が発行されています。これらの指摘事項については全て該当部署による是正処置が実施され、内部環境監査による確認が完了しています。また、外部審査機関による定期審査では、10件の指摘がありましたので各関連部署を中心に必要な見直しを実施しています。



全社全事業所で、ISO14001 (JISQ14001)の認証を取得して8年余り、全社全事業所でEMSの維持向上に努めて参りましたが、全世界規模での原油や穀物価格の高騰など非常な経営環境の悪化への対応のために、2008年度より直接的な環境影響が比較的少なく販売の第一線を担う営業部門(上図の『環境マネジメントシステム組織図』で※印を付記した組織)を認証取得範囲から除外しました。しかしながら、当社のEMS運用ルールに準じた活動は、今後も継続する組織ですので「準適用組織」と位置付けて運用しています。

## 環境目的目標の達成状況

2007年度（2007年4月1日～2008年3月31日）の環境目標への取組みに対する達成状況です。

【取組み結果の評価マーク】  
 目標達成 ほぼ達成 もう少し



環境目的	2007年度の目標	結果評価	解説
温室効果ガスデータの活用による全社エネルギーコストの削減。	全社データを把握する。エネルギーコストの削減。		2006年度の現状把握に引続き2007年度の実績把握を行いました。また、営業部門へ働きかけで社用車の台数削減や車種変更などの見直しを図りました。
グリーン販促物購入比率の拡大。	グリーン購入アイテム比率を70%にする。		前年は75%まで伸ばすことができましたが、今年は60.9%に留まりました。
受注ミスによる追加配送の削減。	受注ミス件数を前年対比で20%削減する。		目標の20%削減には至りませんでした。前年対比11%の削減ができました。
配送クレームによる商品廃棄量の削減。	配送クレーム発生率を前年実績を維持する。		2006年度は目標を大幅にクリアすることが出来たので、2007年度はその維持を目標とし、達成することができました。
外注クレーム件数の低減。	外注クレーム件数を前年実績から15%低減する。		2006年度は、あと一歩およびませんでした。2007年度は前年対比35%の低減ができました。
購買起因トラブル抑制による無駄の排除・抑制。	支給原材料のクレームを前年対比30%低減する。		外部委託業者様への支給原材料のクレーム件数は、削減に至りませんでした。
中身入りポーションの破碎分別によるリサイクルの推進。	廃棄量を90%削減する。		目標には届きませんでしたが、達成率70%まで削減することが出来ました。
電力使用量データの有効活用による省エネの推進。	製品仕込み量を原単位として1%の省エネを実施する。		目標には届きませんでしたが、達成率96%まで削減することが出来ました。
販売活動に伴う商品ロスの削減。	(営業部) 前年実績の10%削減。		長期滞留品への早期アクションを実施して参りましたが、費用低減までには至りませんでした。
	(特販部) 外注商品の管理精度向上による商品ロスの低減。		上期実績に基づいて設定した下期の目標を大幅に達成することができました。

## 環境保全活動

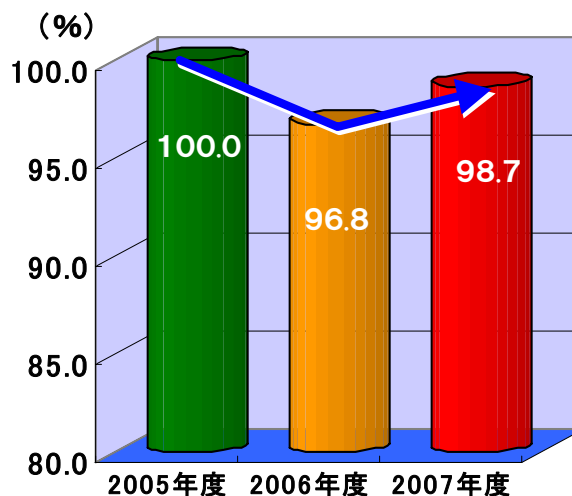
### ◆エネルギー消費量の推移（三重工場）

2005年度以降、一旦削減できたエネルギー消費量ですが、2007年度は原単位ベースで微増しました。

エネルギー消費量が微増した原因として、生産数量は前年並みですが製造工程上の機器トラブルにともなってエネルギー消費量の面でも大きなロスが発生したことによって、原単位で約2%悪化しています。

三重工場は省エネ法\*で定められた第1種エネルギー管理指定工場としての取組みの一環として、省エネルギー推進委員会を中心に、事業所の省エネ活動を展開しています。

\* 省エネ法：  
『エネルギーの使用の合理化に関する法律』



エネルギー消費量の推移（原単位）  
※2005年度を100として比較

### ◆排水処理の管理状況（三重工場）

三重工場の生産ラインから排出される排水の管理状況は、昨年の報告以降も下表の通り関連する法規制の基準値を下回って問題なく推移しています。

単位：mg/L（但し、水素イオン濃度は単位なし、大腸菌群数は個/ml）

測定項目 (基準値)	測定サンプル採取日（月/日）と測定結果											
	4/19	5/24	6/28	7/20	8/22	9/24	10/10	11/19	12/13	1/24	2/14	3/19
水素イオン濃度 (5.8~8.6)	7.10	6.70	7.10	7.30	7.10	7.50	6.60	7.60	7.30	7.60	7.70	7.20
生物学的酸素要求量 (25以下)	2.40	2.90	2.00	2.00	2.30	2.90	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00
化学的酸素要求量 (なし)	14.60	12.10	9.50	8.80	8.50	9.60	10.50	15.00	14.20	11.40	13.60	13.20
浮遊物質 (90以下)	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00
カルキ抽出物質 (30以下)	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
全窒素 (120以下)	15.20	20.50	31.60	12.90	16.00	27.90	31.00	13.80	18.00	14.50	7.00	14.90
全リン (16以下)	0.94	0.61	1.47	0.87	1.40	1.51	1.35	1.68	1.67	0.24	0.41	1.05
大腸菌群数 * (3000以下)	(-)	(-)	(-)	61	26	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
鉄 (10以下)	2.10	1.30	1.20	1.20	0.80	1.00	1.20	1.30	1.70	1.30	1.60	1.60
マンガン (10以下)	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
亜鉛 [年1回測定] (5以下)	0.7 (3月19日採取)											
基準適合判定	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合

\* 大腸菌群数の(-)は測定限界未満の陰性を示す。

# 環境保全活動

## ◆ 社用車の環境負荷低減

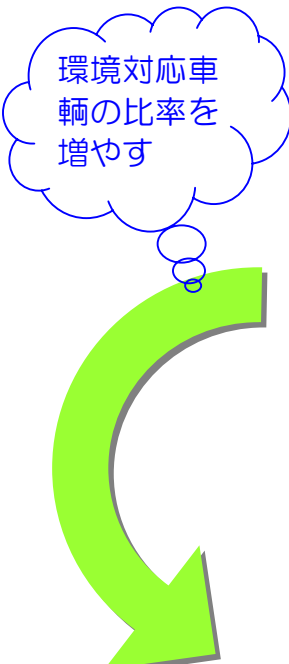
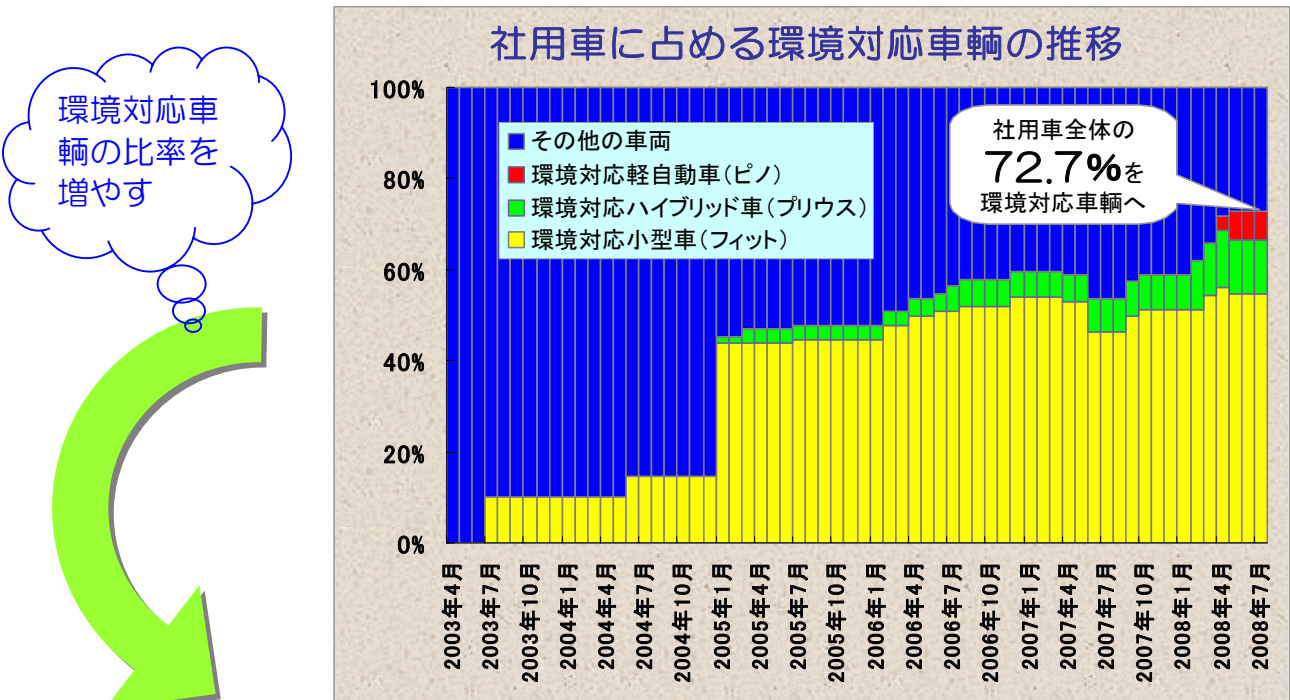
従来からの活動として事業活動に使用する社用車も、できるだけ大切に長期的に使用し、更新時には社内基準に照らし合わせて環境負荷の低い車種を優先して採用して参りました。

2007年も社内基準を見直し、ハイブリッド車(プリウス)や小型車(フィット)に加えて軽自動車も選択肢の一つへ加えました。

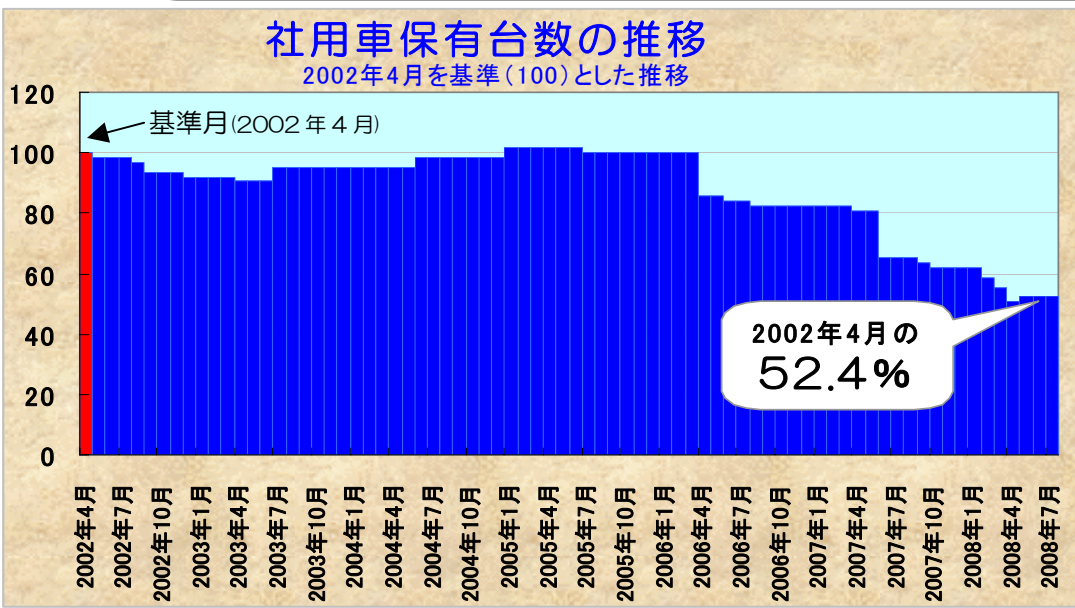
また、『一番の環境負荷軽減は保有台数を下げること』との認識のもと抜本的な見直しを進めてきています。

その社用車の切り替え状況(社用車に占める環境対応車輛の推移)と保有台数(社用車保有台数の推移)は下図のように推移しています。

また、これらの取り組みにともなって社用車の利用で発生させているCO<sub>2</sub>はデータを取り始めた2006年に比較して2007年度は約78ton(53%)の削減となりました。



温室効果ガス排出量 **約78ton (53%)** 削減(前年度対比) ※CO<sub>2</sub>換算





## 環境保全活動

### ◆主力商品の容器包装見直し

三重工場では、使用する包装材料について環境負荷の少ない包装材料への改善を推進しています。

その一環として、充填工程で使用するポーション容器の【シート底材の薄肉化】【容器成型の小型化】についての研究を重ね、製品品質を低下させることなく、その実用化が可能となりました。

#### 【シート底材の薄肉化】

5mlフレッシュ用のシート底材について、資材メーカーでのシート底材の製造時に於ける厚みバラツキを分析し、従来の規格幅を変更すること無く、厚み管理基準のターゲットを可能な限り下げる事で、製品品質を維持した上で、従来品と比較し2.0%の薄肉化を実現しました。

また、シロップシートについても製品品質を低下させないシート底材の厚みを模索すべく、厚み変更による充填、包装ラインテスト、輸送テスト、落下試験などの検証を繰り返し実施した結果、従来品と比較し、11g、13g用=9.1%（9g用=9.3%）の薄肉化を実現しました。これにより、シート底材の薄肉化の取り組み合計で年間61.2t（2007年度実績）の包材使用量削減（省資源化）に繋がりました。

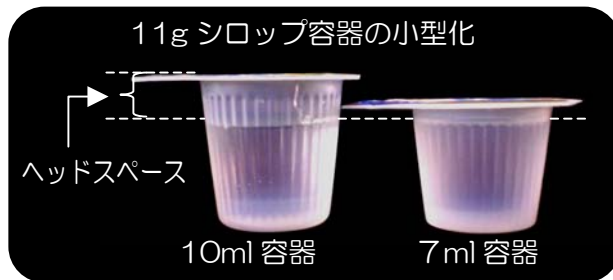


#### 【容器成型の小型化】

11gシロップについて、従来品は10mlシロップ用の成型容器にて充填をしておりましたが、容器内ヘッドスペースの確認検証、充填テストを実施して、ワンサイズ小さい7mlシロップ用の成型容器を使用することが可能である事が確認できましたので、7mlシロップ用の成型容器を使用することで小型化を実現しました。これにより、従来品と比較し容器1個当たりの容積を約23%低減いたしました（廃棄物の削減）。更に外装フィルム、ダンボールについてもダウンサイジングが可能となり、併せて包材使用量の削減（省資源化）、製品輸送効率の向上にも繋がっています。

また、ノンカロリーシロップについては、7mlシロップ用の成型容器に7mlの内容物を充填しておりましたが、内容物を濃縮することで従来の甘味度を落とすことなく5mlでの充填が可能となり、5ml用の成型容器を使用することで小型化を実現いたしました。これにより、従来品と比較し容器1個当たりの容積を約20%低減いたしました（廃棄物の削減）。

これらのシロップ容器の小型化は、切替えの提案を行っており、随時、切替えを実施して行っております。

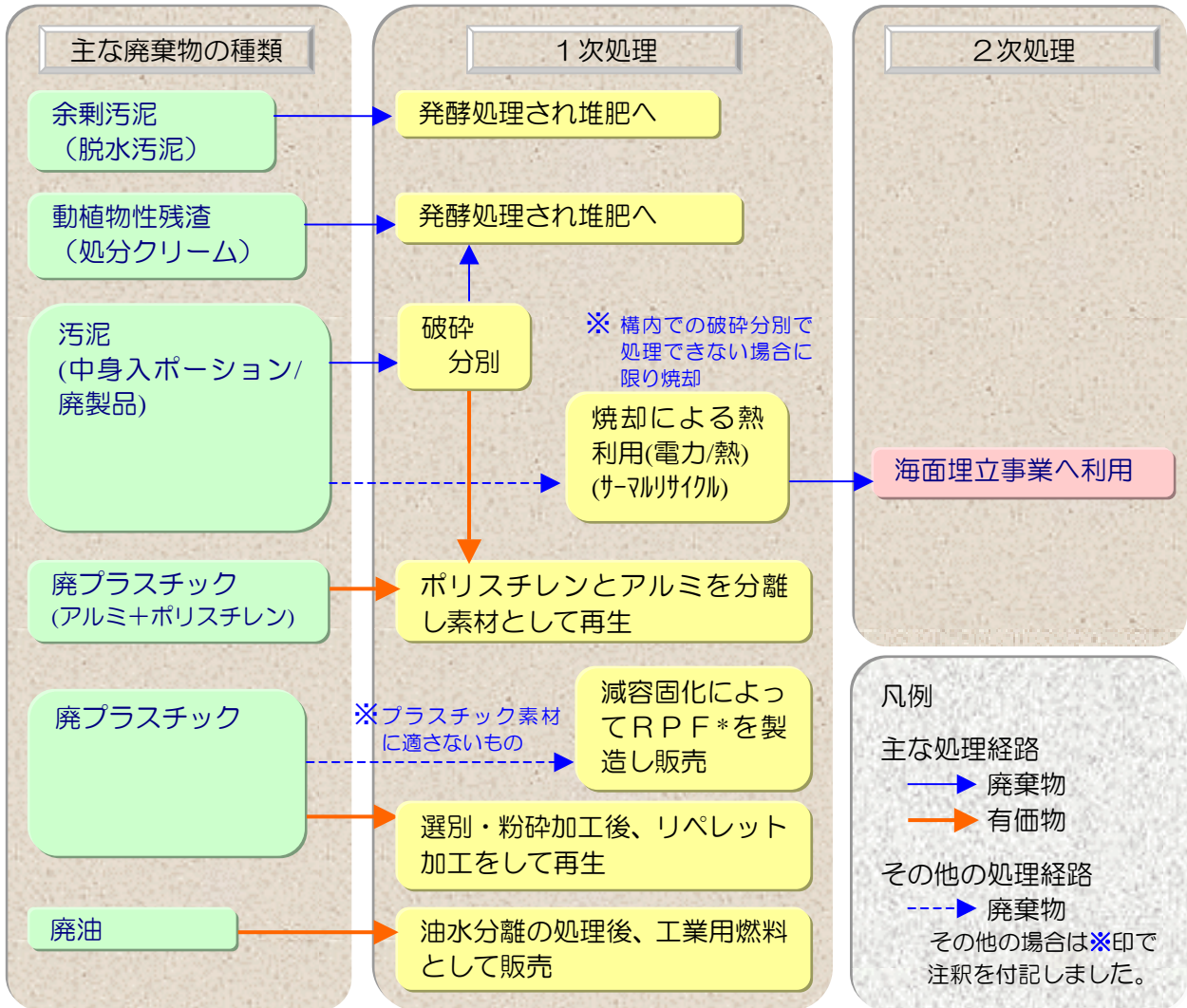


改善対象	改善内容	省資源効果(従来品対比)	省資源率(廃棄物削減率)
11g用シロップ容器	10ml用成型容器から7ml用成型容器使用に変更し小型化を実現 ※1	1個当たりの容積: 約23%低減	随時切替中
7mlノンカロリーシロップ	内容物を濃縮し、7mlから5mlへ変更し容器の小型化を実現 ※2	1個当たりの容積: 約20%低減	随時切替中

# 環境保全活動

## ◆ 三重工場の廃棄物処理

当社の主力工場である三重工場から排出される廃棄物の多くは、リサイクル処理で色々なものに再生されています。

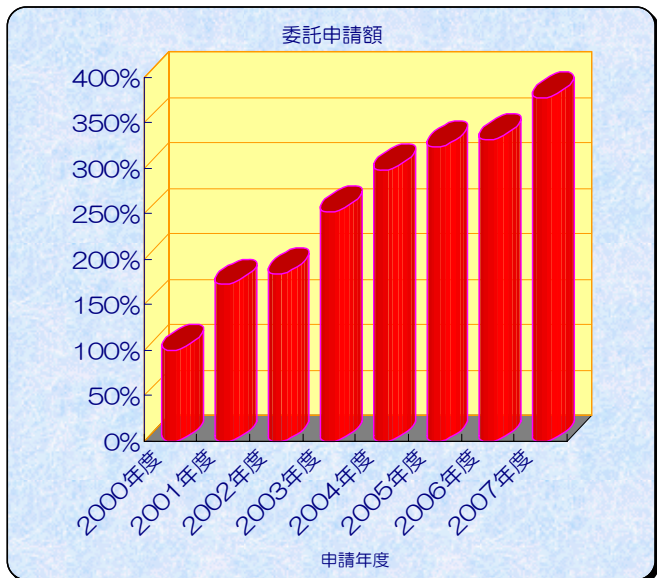


【用語解説】 RPF : Refuse Paper & Plastic Fuel の略称。

素材としてのリサイクルが困難な古紙やプラスチックを原料とした高カロリーな固形燃料

## ◆ 容器包装リサイクル法に基づく委託実績

当社は容器包装リサイクル法に定められた「特定容器利用事業者」として、法で定められた指定法人「財団法人 日本容器包装リサイクル協会」への委託を行っており、その委託申請額は初年度を100とすると、右のグラフのように推移しています。





## 高山植物保護活動の支援

### ◆NPO 法人 日本高山植物保護協会を応援しています

特定非営利活動法人日本高山植物保護協会支援活動として、所属している同協会関西支部（以下、関西支部と表記）の活動に積極的に参画し、皆様のご協力により 2007 年度は関西支部設立 15 周年を迎えることが出来ました。今後も高山植物保護思想の啓蒙活動だけではなく、広く環境保護意識の啓蒙に取り組んで参ります。  
《紙面の都合上一部の活動をご紹介します。》



[ イワカガミ ]

#### 【2007年度の主な行事】

- 伊吹山環境美化活動(主催:米原市)へ参加  
[伊吹山：5月18日、参加者4名]
- 定期総会・研修会・懇親会  
[太閤園：6月2日、参加者50名]
- 環境学習会  
[琵琶湖博物館、サントリー山崎蒸留所：9月22日、参加者21名]
- 関西支部設立 15 周年記念大会  
[ホテル阪急エキスポパーク：11月17日、参加者80名]

### 伊吹山環境美化活動～伊吹山山頂～



本格的な花のシーズンに先駆けて、例年実施される「伊吹山環境美化活動」は“伊吹山を守る会”をはじめ地元の関係者を中心とした参加者の皆様と共に 5 月 18 日の開催となりました。毎年日程が決まってから実施までの期間が非常に短く、多くの会員で参加しづらい行事ですが、伊吹山と関西支部とは支部設立時よりとても縁のある関係ですので、少人数でも極力参加してまいりました。

今年も厳しい冬の爪痕ともいえる押し倒されロープも寸断された保護策の補修や、清掃活動などを実施しました。

### 関西支部 15 周年記念大会～ホテル阪急エキスポパーク～

関西支部は 1992 年(平成4年)11月15日の設立以来、会員の皆様によるご支援、本部理事をはじめ歴代支部長、幹事、役員の方々の活動・運営によって、また、ご賛同いただいた多くの法人会員の皆様のご支援によって、今年で設立 15 周年を迎えることができました。この紙面をお借りして、御礼申し上げます。

設立当初は 200 名余りだった会員数は、法人会員をはじめ多くの個人会員や賛助会員の皆様のご協力により 10 余年で一般、法人、賛助会員を合わせて 500 名を突破するに至りました。しかしながら 15 周年を迎えた現在では、様々な経済的・社会環境の影響も手伝ってか会員数の伸びは頭打ちの状況を示しています。

逆にこのような時だからこそ、高山植物の保護という旗印の下で地球環境の保全、温暖化の抑制などへの取り組みと啓蒙を微力ながら継続してまいります。

引き続き、皆様のご理解とご支援ならびにご協力をお願い致します。





みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

メロディアンはチーム・マイナス6%に参加しています。

2008年7月発行 (VOL. 17. 1)